



# 小児がん 将来を考えた治療法を

国は、平成24年度から5年間で進める「がん対策推進基本計画」のなかで、拠点病院の整備など小児がん対策の強化をあげた。今回は、小児がんのなかでも罹患率の高い血液がんの治療実績の豊富な大阪府で、先進的な治療を進める大阪赤十字病院（大阪市天王寺区）の朴永東小児科副部長（血液腫瘍担当）に現状と課題を聞いた。

治癒率が高まれば高まるほど、逆に合併症を恐る人が増える。小児がんは、骨髄移植や造血幹細胞移植など、移植治療が中心である。移植治療は、移植後の生活に大きな影響を及ぼす。移植治療を受ける小児がん患者は、移植後の生活に大きな影響を及ぼす。移植治療を受ける小児がん患者は、移植後の生活に大きな影響を及ぼす。

「がん情報」を患者目線で 患者・市民目線に立ったがん情報の総合的なポータルサイト「大阪がんええナビ」。がん患者の「時間」や「努力」を無駄にせず、適切な情報を分かりやすく、早く得られるよう構成されている。来年1月から内容をバージョンアップする予定。大阪がんええナビ http://www.osaka-an.avip

【完治後を視野に】 国内の小児がんの実態は、成人は年間60万人が、がんに罹患します。小児がんの発症数は年間2500〜3000人で、5年生存率は、急激に低下しています。なかでも多いのが白血病で、3分の1を占めます。近年、小児がんの治療法は進み、英国のデータによると小児がん全体の生存率は7〜8割に高まっています。

「がん情報」を患者目線で 患者・市民目線に立ったがん情報の総合的なポータルサイト「大阪がんええナビ」。がん患者の「時間」や「努力」を無駄にせず、適切な情報を分かりやすく、早く得られるよう構成されている。来年1月から内容をバージョンアップする予定。大阪がんええナビ http://www.osaka-an.avip

「がん情報」を患者目線で 患者・市民目線に立ったがん情報の総合的なポータルサイト「大阪がんええナビ」。がん患者の「時間」や「努力」を無駄にせず、適切な情報を分かりやすく、早く得られるよう構成されている。来年1月から内容をバージョンアップする予定。大阪がんええナビ http://www.osaka-an.avip

## 晩期合併症対策が重要



小児がんの完治率が高まるなか、治療後の生活を考えなくてはならないと話す朴副部長

「小児がんの完治率が高まるなか、治療後の生活を考えなくてはならない」と話す朴副部長。晩期合併症対策が重要。晩期合併症対策が重要。晩期合併症対策が重要。

「がん情報」を患者目線で 患者・市民目線に立ったがん情報の総合的なポータルサイト「大阪がんええナビ」。がん患者の「時間」や「努力」を無駄にせず、適切な情報を分かりやすく、早く得られるよう構成されている。来年1月から内容をバージョンアップする予定。大阪がんええナビ http://www.osaka-an.avip

## 患者、家族の支援強化へ

平成24年度から5年間で進める「がん対策推進基本計画」が、第2次計画では、全体目標を「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」とし、重点課題として「がん世代へのがん対策の充実」をあげた。ターゲットとして「働かざる者」の支援強化へ。

「がん治療の現場から」 がん治療の現場から。がん治療の現場から。がん治療の現場から。

「がん情報」を患者目線で 患者・市民目線に立ったがん情報の総合的なポータルサイト「大阪がんええナビ」。がん患者の「時間」や「努力」を無駄にせず、適切な情報を分かりやすく、早く得られるよう構成されている。来年1月から内容をバージョンアップする予定。大阪がんええナビ http://www.osaka-an.avip

## 地域ネットワーク課題

東日本大震災は、戦後最大の災害となった。次は西日本での大津波地震の発生が懸念されているが、津波から身を守るには避難するしかない。そのため、地域のネットワークが重要だ。この場合地域のネットワークとは、自治会、学校、行政、企業、商店などを指す。こうした個人の安心・安全を地域のネットワークが支えるというところは、がん治療にもあてはまる。



(写真はイメージです)